

ハート通信

編集・発行 名古屋徳洲会総合病院 心臓血管外科 術後の会
〒487-0016 愛知県春日井市高蔵寺町北2-52
TEL:0568-51-8711 FAX:0568-51-7115
URL: <http://www.nagoya.tokushukai.or.jp/>

コンテンツ 2P……術後の会報告①
3P……術後の会報告②
4P……あの医師は現在①
5P……あの医師は現在②
6P……術後体験記
7P……心臓超音波検査
8P……御挨拶

第17回 心臓血管外科術後の会

～名鉄犬山ホテル～



平成28年10月8日(土)に17回目となる術後の会を犬山にて行いました。患者さん、スタッフ合計181名が病院、中津川からのバスや自家用車にて名鉄犬山ホテルに集まりました。術後の悩みについての医療相談会を約1時間行いました。術後の創部の痛み、再発、薬、食生活等についての多くの質問が寄せられ、担当の職員より返答させて頂きました。その後、犬山温泉、アロママッサージ(ハンドマッサージ)を楽しんでいただき、豪華な食事による懇親会を行いました。今回は、サプライズで犬山市長の山田たくろう氏をご来場され、健康維持と犬山市観光についてのお話をされました。懇親会後半には、「術後のリハビリについて」「あなたの足と生活を守るために」「術後に気を付けること」の医療講演を行いました。恒例になりました大垣徳洲会病院山崎薬局長によるマジックショーは、前年よりさらに進化したマジックに大きな拍手が沸き起こりました。患者さんから体験談も聞かせて頂きました。突然の大動脈解離で倒れられ、意識がないまま緊急手術となり、その後、元気に術後の会に参加して頂いたお話には職員全員元気づけられました。全員で記念写真を撮った後、無事に帰宅の途に着きました。



第17回 心臓血管外科術後の会では多数のイベントを開催

- 医療相談会で患者さんから頂いた様々な質問に対する回答を一部ご紹介致します。
術後で不安に思っていることや日常生活で気付いた疑問などのご参考になればと思います。



Q

最近、歩行が遅くなりました。閉塞性動脈硬化症について聞きたいです。

A

歩行できなくなる理由の大部分は血管のせいではありません。一定距離歩いた時に、ふくらはぎが痛い方は病院を受診して下さい。



Q

血圧が100/50mmHg以下に下がりすぎる時があります。大丈夫でしょうか？

A

めまい・たちくらみがなければ、様子を見てください。そして、めまいや立ちくらみがあれば横になって休んでください。体に異変を感じたら病院を受診して下さい。



Q

術後肋骨の違和感が少なくなっていますが、4ヵ月経っても残っています。どの程度立てば全快するのでしょうか？

A

大抵の場合が2ヶ月前後で落ち着きますが、もともとの骨の強度などによって個人差があります。あまり長く続き心配な場合は病院を受診して下さい。

第17回 心臓血管外科術後の会では多数のイベントを開催



▲犬山温泉でゆったりくつろぐ様子



▲アロマハンドマッサージで、香りとマッサージを楽しむ様子



▲広い会場でイベントを楽しみながら豪華な食事による懇親会



▲犬山市長 山田たくろう氏からサプライズでご挨拶



▲大垣徳洲会 山崎崇薬局長から恒例のマジックショー

医療講座



▲『術後に気を付けること』 心臓血管外科 総長 大橋 壮樹



▲『あなたの足と生活を守るために』 心臓血管外科 部長 只腰 雅夫



▲『術後のリハビリについて』 リハビリテーション科 主任 竹岡美代子

いま あの先生は現在・・・

当院で経験を積んだ心臓血管外科医師が、名古屋のみならず、東京、京都、大阪（松原、野崎）、神戸の6病院で手術をさせていただいております。



神戸徳洲会病院
心臓血管外科 部長
平井 康隆
(2004～2011在籍)

神戸に移り、心臓血管外科医療に従事しています。

術後の会の皆さま、お久しぶりです。私は、平成13年に福井医科大学を卒業し、その後、名古屋徳洲会に入職し途中、松原徳洲会病院や宇治徳洲会病院を経て現在は、神戸徳洲会病院で勤務しております。

思い返せばこの15年前、名古屋徳洲会総合病院で多くの患者さんの手術治療に参加し、様々な症例に携わり、自分自身にとっても貴重な時間を過ごすことができたと思っております。

名古屋・大阪で研鑽を積み、京都を経て、現在は、神戸に移り、この地域の心臓血管外科医療に従事しております。機会があれば、また名古屋で勤務できたらと思っております。

術後の皆様が、これからも末永く健康にお過ごしいただけるように祈念致します。



宇治徳洲会病院
心臓血管外科 部長
小林 豊
(2011～2012在籍)

京都で、救急医療など体制作りに必死の毎日です。

東海地区の術後の会の皆さま、ご無沙汰しております。2011年に初めて愛知の地を踏み、一年間で多くの患者さまの笑顔に出会い、地域の先生方のご高配を賜りました。そのような折、2012年の6月より宇治徳洲会病院心臓血管外科部長に着任いたしました。慣れ親しんだ地を断腸の思いで離れることとなりましたが、新しい環境のもとで救急医療や心不全に対する外科治療を積極的に行っております。

日々の診療と体制作りに必死の毎日ですが、「土地は変われど心は同じ」と自分に言い聞かせ、ただひたすらに目の前の患者さんと向き合っております。病院間での交流を通じて患者さんや諸先生方のお役に立てるように邁進して行こうと思っておりますので、今後ともどうかよろしく願いいたします。



▲心不全に対する外科治療に取り組む様子

東京で、日々診療に励んでいます。



東京西徳洲会病院
心臓血管外科 部長
景山 聡一郎
(2008～2016在籍)

皆さま、ご無沙汰しております。東京西徳洲会病院心臓血管外科部長の景山です。私は、名古屋徳洲会病院で約10年間大橋先生の下、修行をさせていただき、昨年10月から東京西徳洲会病院に赴任しました。突然の異動となり、外来で長年診させていただいた患者さんにご挨拶も出来ず、大変失礼いたしました。現在は東京で日々診療に励んでいます。

この10年間で、海外の学会発表や大阪大学の国内留学など、様々な経験を積むことが出来ました。今まで学んできたことをさらに発展させて、これからも精一杯頑張っていきます。

心臓外科の世界も、この10年間で目まぐるしい進歩を遂げています。私も常に最高の医療を皆様に提供出来るよう、日々努力していきますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



▲手術の様子

大阪に移り、年間100件超えの手術を執刀中です。



松原徳洲会病院
心臓血管外科 医長
古井 雅人
(2008～2015在籍)

東海地区の皆さま、ご無沙汰しております。私は2008年4月に名古屋徳洲会に入職し途中、大垣徳洲会病院への応援も含めて2015年まで名古屋徳洲会でお世話になりました。思い返せば9年前、非常に救急が盛んな病院での初期研修を終え、やる気に満ち溢れて春日井の地に来たのを覚えております。名古屋では様々な症例に携わることができてチーム一丸となり患者さんのサポートをさせていただきとても貴重な7年間でした。現在は大阪に移り、術者として年間100件を超える開心術に携わらせていただきました。また昨年、カナダで行わ

れた低侵襲心臓外科学会や国内学会への参加機会も設け、当院での成果を発表しつつ新たな情報も取り入れつつ、より安全な技術の提供ができる様、研鑽を積んでいます。これからも徳洲会病院を受診された皆様がお元気にお過ごしになられることを大阪の地でも祈っております。



▲カナダでの学会発表の様子

術後体験記



M.Mさん 女性

平成28年5月、足が痛くて接骨院に行ったところ、「内臓からじゃないかな？」と先生に言われて気になったのでクリニックに行きました。

レントゲンを撮った結果、少し大きなT病院を紹介されました。そこには、心臓外科はなく、治療ではなく次に起こるだろう病気の予防しかしないと言われたので治療のできる名古屋徳洲会総合病院を紹介していただきました。そこで僧帽弁逆流症と診断されました。診察を受けたところ「レベル5」だと言われ手術を勧められました。10月中旬、約9時間近い手術を受け、その後2度も続けて手術をしましたが、とても親切で献身的なスタッフのみなさんに支えられ、3週間程で無事退院することができました。

今では足を見るのが楽しくらいすっきりとした足になり、痛みも消え楽しく毎日を過ごしています。ありがとうございました。



T.Mさん 男性

平成28年9月初旬初め、犬の散歩で上り坂を歩くと胸の苦しさを感ずるようになり、その後、毎日、同様の経過であったため、9月9日T病院を受診し、検査の結果、労作性の狭心症と診断され、名古屋徳洲会総合病院で精密検査を受けた結果、自分の心臓の冠動脈があちこちで狭窄状態であることが分かりました。

そして、血管が狭くなり過ぎていて、リスク回避のためにもすぐカテーテル治療を始めようという医師のすすめでドタバタ準備に入り、その間、家族とも連絡が付かない時間がしばらく経過しました。それでも一泊二日で帰れるならと覚悟を決めて治療に臨みましたが、途中で先生から「訳は後でお話ししますが、治療を中止します」と言われ、一泊二日の帰宅の望みはあっさり絶たれてしまったのです。

そしてその夜、家族が同席する中、循環器内科の先生と心臓血管外科の先生から説明を受け、結果を考えるとステント留置による治療よりバイパス手術を選択するほうがベターであると言われ、直ぐに納得してしまっただけです。ただ、大手術になるので体の負担は相当なものであろう事は想像に難くなかった所でした。しかし、不思議と手術そのものに対する不安はその日の説明でも、手術前日の説明でも殆ど感じませんでした。多分、説明された先生が醸し出す雰囲気こそがそうさせたのかな？と思っています。手術予定日まで1週間ほどありましたが、その間に様々な検査や口腔内のケアなどがあり、あっという間に手術当日を迎えました。当日(9/16)は、手術室へ入って沢山のスタッフが準備を進めていたという記憶の後には、麻酔が効いて全く分からず、気が付けばICUのベッドの上、ただ、呼吸器の管が入って苦しくて仕方なかったという思いが強かったです。筆談セットがベッドサイドに常備されていれば良かったかな？と思います。ICUでは長時間勤務の中、絶えず動き回っている看護師さんの姿をみて大変だと思い、ただただ感謝という気持ちでした。ICUでの2日目の夜、「状態が安定しているのでも今度緊急が入ったら一般病棟に移ります」と告げられたのですが、結局、一般病棟への移動は術後3日目の朝になりました。3階病棟へ戻って、とにかく、後はリハビリを頑張らなくてはという思いでしたが、最初のうちは直ぐに心拍数が上がってしまい、心電図モニターで警報音が頻発していました。それでも2日ほど経つと心拍数も高めでしたが安定するようになり、病棟の廊下を歩けるようになり、血圧、心拍数などをチェックしながら歩行練習に励みました。リハビリ室でのトレーニングも加わり、体を動かすことが気持ちよく感じられ、早く外に出たいという思いに駆られるようになりました。そして術後約2週間で退院することが出来ました。この間、優しく声をかけサポートして下さった看護師他すべてのスタッフの皆さんどうもありがとうございました。これからは、バイパスで元気になった心臓を大事にケアしていきたいと思っています。お世話になった多くの方々に対する感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。

心臓超音波検査

心臓の手術をされた患者さんが手術後によく行う検査の一つに心臓の超音波検査があります。超音波検査は繰り返し手軽に行うことができ、手術後の心臓を経過観察するのに適した検査です。

今回は、そんな超音波検査についてお話しします。



検査科
〈副技師長〉
鶴田 隆一

超音波検査とは



検査装置の探触子より超音波と呼ばれる人間には聞こえない3～10 MHz(メガヘルツ)くらいの高い周波数の音を体内に送信し、体内のいろいろな臓器に反射して戻ってきた音を画像に処理して臓器を観察する検査です。

原理的には、やまびこのように、山に向かって「やっほ～」と声を出すと、声が山に反射して「やっほ～」と聞こえるのと同じです。

超音波検査は心臓や肝臓、腎臓などの体内臓器や乳腺などの体表臓器、血管などからだのいろいろなところを観察することができます。

心臓超音波検査でわかること

心臓超音波検査では、心臓の大きさや、心臓が正常に収縮しているか、心臓の弁がしっかり開いたり閉じたりして血液が逆流していないかなどを検査します。

例えば冠動脈バイパス術後の患者さんでは、心臓の動きの弱いところの有無や収縮能力(心臓が全身に血液を送り出す力)は保たれているのかなどを観察します。さらにバイパスに使用した血管の流れ具合も観察します。

また、心臓の弁の手術をされた患者さんでは、人工の弁が正常に機能し血液の逆流や漏れなどないかを観察します。



▲心臓超音波検査の画像

最後に

超音波検査は手術後だけでなく手術前に心臓の状態の把握や手術適応の判断にも使われます。

手術後は定期的に超音波検査を行うことによって、もし異常が生じた場合でも早期に発見し対処することができます。

ご挨拶

心臓血管外科 術後の会 会長 松原 光男



春雨降りやまぬ候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。毎々格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、第17回心臓血管外科術後の会を犬山にて開催することが出来ました。全員が参加できる医療相談会、好評だったハンドマッサージ、恒例の手品から大橋総長の御講演と企画も盛り沢山で、何よりも、会員から、近場でゆっくりとしたいとの要望に応えることができたと思います。

私自身も振り返れば、平成12年1月に緊急手術を受けてから17年が過ぎ、80半ばになり、最近特に、身体の衰えを感じておりますので、次期会長募集中です。

また、昨年『手術数でわかる いい病院2016』に名古屋徳洲会総合病院が東海地区第1位、全国第15位に掲載されておりました。本年の『手術数でわかる いい病院2017』においては、東海地区第2位、全国第15位と、私たち術後の会にとっても大変誇らしく思っております。私たちが安心して術後の生活を送ることができるよう、これからも名古屋徳洲会総合病院の益々のご発展をサポートできればと思います。

ご挨拶

心臓血管外科 総長 大橋 壯樹



昨年の犬山での術後の会では多くの術後の患者さんご家族様にお会いできて大変嬉しく思いました。しかし、術後の経過で多くの悩み、不安があることも知り、快適な術後が送れるように勉強して今後の診療に活かしていきたいと思えます。また突然の大動脈解離で倒れられ手術してお元気に退院された患者さんからの壮絶な体験とご家族への思いを聞かされとても感動しました。手術だけでなく術後も皆様がお元気に不安なくお過ごしできるようにこの会を充実させていきたいと思えます。今後とも何卒よろしく願いいたします。